

## 原理原則と我流

新先生のワークショップで最初に話されるのが、次の言葉です。

「片側に原理原則という言葉があると、その対極にあるのが、我流です。原理原則を知らなくてもあるところまでは我流で成功することはできるかもしれない。しかし、我流ではどこかで伸びが止まってしまう。」

「原理原則を知ったからと言って100%成功するとは限らないが、成功の確率は高まる。しかし、原理原則を知らないと、成功の確率は限りなく低くなる。」

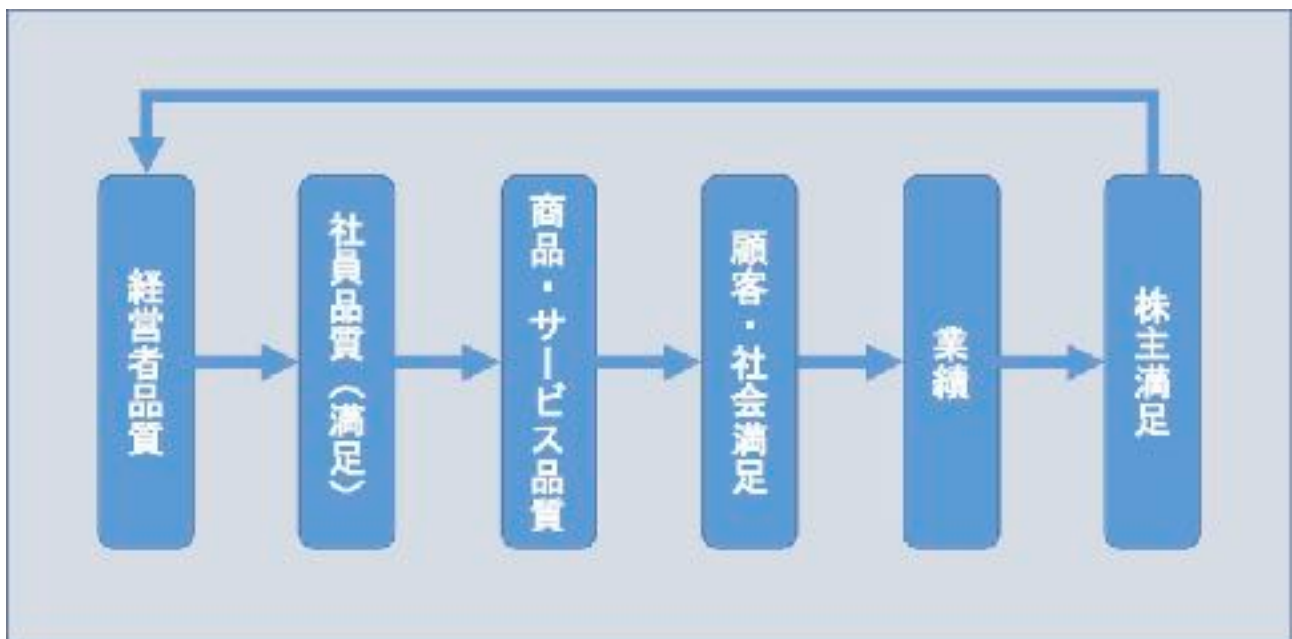
原理原則の重要性を解くときの言葉です。原理原則というのは、人から聞くと当たり前のことばかりです。しかし、それをきちんと自分のものになっているか、当たり前と思って、おろそかにしていないかということです。原理原則をおろそかにしている人は、どこかで躓くのです。

成功している人ほど、原理原則を理解し、それをやり続けています。その結果、自分なりの特色を出しているが、それは単なる自己流ではないということだとおもます。

伝統芸能で言われる「守破離」と同じことだと思います。「守」がまさに原理原則ということですね。

## 勝ち残る企業創りの流れ

新先生が経営を語られる時、その根本とも言える原理原則が次の図です。



「古今東西、企業の規模に関わらず、勝ち残る企業はこのフローチャートに沿っている」  
「流れが途切れずスムーズに流れていれば、その企業はいつまでも成功している、不老チャートと、流れば途中で途切れ、経営に問題をかかえる、不良チャートがある」

フローの説明は、別の機会に説明したいと思います。ポイントは、このフローのどこかに課題があると、たまたま業績がよかったとしても、長くは続かないということです。そして、原点は「人」（左の二項目）だということです。

## 顧客満足は価値から得られる

「勝ち組は価値組」

「勝ち残る企業創りの流れ」の中に、「顧客・社会満足」という項目があります。顧客が本当に満足するのは、商品の「価格」ではなく「価値」です。どんなに安く提供しても、品質が悪ければ、顧客はそっぽを向きます。逆に、顧客がその価格と品質に納得すれば、高価なものでも喜んで購入します。

勝つのは、価値を創りだす会社、ということですね。

## 二つの満足

「勝ち残る会社創りの流れ」に、社員品質があり、その項目の括弧書きで「満足」とあります。高い能力を持った社員が、満足感を持って働くことが大事ということですが、満足には二つの満足があるそうです。

「社員の満足には、良い満足と、悪い満足がある。良い満足とは、①会社への誇り、②仕事の達成感、③自己実現感。悪い満足とは、安易な現状是認（妥協）、これは危機感の欠如に繋がる。」

「まあ、こんな感じでいいか」と、中途半端なところで、満足してしまう。これが、悪い満足です。社員が、このような気持ちでは、フローはその先に進みません。

社員が良い満足感を持っている会社・組織は、皆が「ワクワク」した気持ちで仕事をしているはず。悪い満足感を感じている会社・組織の社員は、「イヤイヤ」感で仕事をしているのではないのでしょうか。